

とやま地域共生型福祉推進特区 [指定：平成23年12月、認定：平成24年9月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(3.0 + 3.3) / 2 = 3.2$

3.2

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	富山型デイサービス事業所における障害者の福祉的就労者(就労継続支援B型支給決定者及び有償ボランティア)数	53%	2
2	富山型デイサービス事業所数	84%	4
3	認知症高齢者と居間等の設備を共用する障害者グループホームの入居者数	63%	3

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 0 + 4 \times 1 + 3 \times 1 + 2 \times 1 + 1 \times 0) / 3 = 3.0$

3.0

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
 (例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.3

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii)の平均値 $(4.2 + 2.0 + 4.0) / 3 = 3.4$

3.4

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.2

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

2.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.0

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.8

- ・現場の課題に対応した規制の特例措置の提案が全国実施に発展し、波及効果も見えてきており、高く評価できる。
- ・評価指標の数値目標は未達成だが、富山型デイサービス施設事業所が着実に増えていることや、起業家養成、職員研修等の取組を広げる活動も十分行われていることなど、全体として富山型モデル事業の進展と定着が窺える。
- ・前回の所見を受けて設定されたサブ指標(就労継続支援B型支給決定者の定着率)が高い点を評価したい。
- ・最終的には、特区で推進している共生社会の実現によって、障害者や高齢者など共生する人々間の関係やQOLがどのように変化したかを明らかにできるとインパクトはさらに強くなると思われる。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.8

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(3.2 + 3.4 + 3.8 \times 2) / 4 = 3.6$

3.6

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。